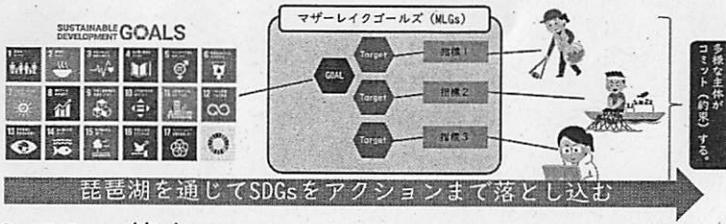


1. MLGsとは

- ・ MLGsとは琵琶湖版のSDGsであり、琵琶湖を通じてSDGsを県民のアクションまで落とし込むもの。
- ・ より多くの多様な主体がSDGsをより自分ごととして捉えられるよう、滋賀県民の暮らしを映す鏡である琵琶湖を象徴として、2030年に向けて、滋賀県独自のゴールを設定するもの。
- ・ 琵琶湖は国民的資産であり、県民だけでなく下流域や県外の方々の賛同を促す。



2. MLGsの策定

- ・ MLGsは、マザーレイクフォーラム (MLF) 10年の活動の集大成としてMLFが起草し、次世代へ引き継ぐ。
- ・ MLGsは、令和3年7月1日 (びわ湖の日40周年) を機に、広く県民の賛同を得て策定する。



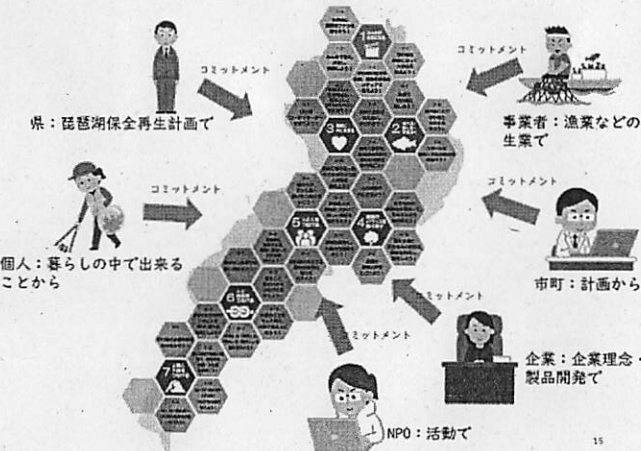
びわコミ会議10年のコミットメントの蓄積+ #びわことこのやくそく



MLGsに昇華

3. MLGsとコミットメント (びわ湖との約束)

- ・ 各主体は各々が関わるゴールに対して「コミット (びわ湖との約束)」し、琵琶湖への積極的な関わりを見える化する。



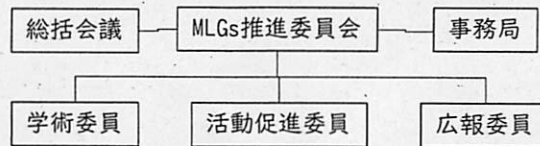
4. MLGsアジェンダ

- ・ SDGsと同様、「アジェンダ」(提案文書)を作成し、達成のためのターゲットや指標を設定する。
- MLGsアジェンダの構成 (たたき台)

1. 基本理念
2. マザーレイクゴールズ
 - (1) ゴール
 - (2) 各ゴールに関する解説
 - (3) ターゲット/指標
3. SDGsおよび「びわ湖との約束」との関係の明示
4. 推進体制
5. 策定経緯等

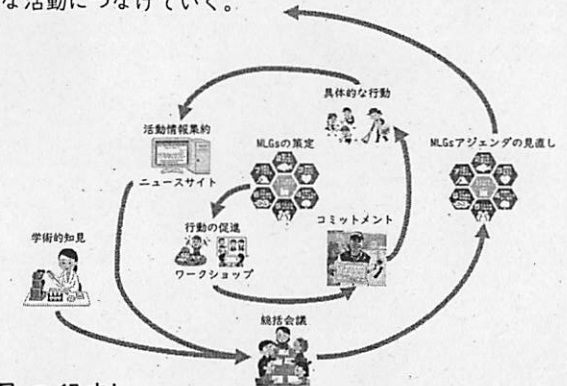
5. 推進組織

- ・ MLGsの推進に賛同するNPO・研究者・事業者等を委員としMLGs推進組織を設立する。
- ・ 当面の間、県は推進委員会の事務局を担う。



6. 進行管理

- ・ 1年に1回、最新の学術的知見と多様な主体の活動の経験を持ち寄り、MLGs達成の進捗状況を議論する「総括会議」を開催する。
- ・ 総括会議の議論の結果に基づきMLGsアジェンダを見直し、新たな活動につなげていく。

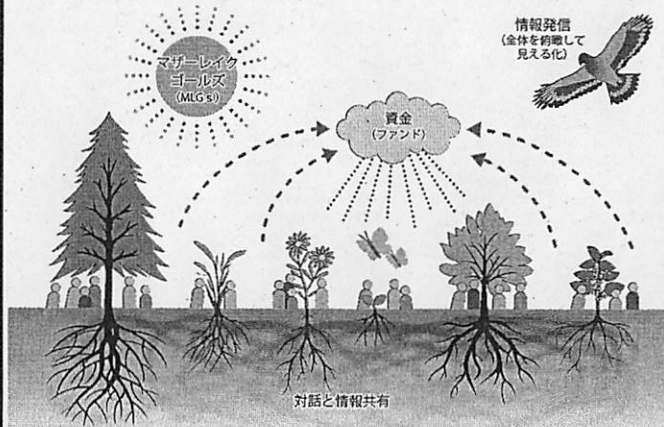


7. 県の役割

- ・ 県はMLGs達成に向けた取組の一参加者であるとともに、組織の運営や、策定後の指標のとりまとめなどで、取組を下支えする。

MLGsの達成に向かう状態

- ・ MLGsを達成するためには、琵琶湖保全に関わる個人・団体間のフラットでオープンなつながりのもと、地域における多様な活動が自発的に創出されること(創発)が必要である。
- ・ 創発の状態は、多様な植物とそれを取り巻く環境に喩えることができる。



比喩	示すもの	担い手	県の役割
多様な植物	多様な主体による活動	NPO、事業者、企業、行政など多様な主体	琵琶湖保全再生計画等、県の施策により取組をすすめる
太陽	MLGs=活動の大きな方向性を示す目標	すべての賛同者	一参加者として賛同
土壌	活動を支える対話と情報共有	活動促進委員	MLGs推進事業によりワークショップの開催等の活動を支援する
水循環	活動を支える資金の循環	(将来的に検討)	MLGs推進事業を予算化
鳥の目	情報を収集し、客観的に評価する視点	学術委員 広報委員	指標のとりまとめを行うとともに、MLGs推進事業によりニュースサイトの運営など情報収集・発信の活動を支援する